戦乱の時代を乗り越えて

～ 土居文子自伝　ろう女性として生きた百年 ～

6月25日発刊された土居文子様の自伝。ろう教育やろうあ運動、また日本の百年史を見ているようなそんな気持ちになる一冊です。お読みになった方から感想をいただきました。

～・～・～

本を開いてまず「うわぁ、美人！」と思いました。読み進めていくと、本当に素晴らしい方でした。

私は昭和53年から大阪で手話の学習を始め、今まで活動を続けています。土居さんは、ご主人が亡くなる昭和61年まで大阪ろうあ協会(現・大阪聴力障害者協会)の評議員をなさっていたということですが、私も同じ時期を大阪で活動していたはずなのに、こんな素晴らしい方がいらっしゃることを全然存じませんでした。

人には、ひとりひとり素晴らしい人生という宝物があり、そこに光を当て、自伝を出版したり、映像にするふくろうまなびあい文庫の取り組みは大切で、私もCS放送『目で聴くテレビ』を通じて行っていきたいと改めて思いました。

（大阪　柳　喜代子）

＊8月5日、土居さんは『目で聴くテレビ』の取材を受けられました。

▼取材を受ける土居さん

▲8月10日で101歳

～・～・～

ふくろうまなびあい文庫3
『土居文子自伝
～ろう女性として生きた百年～』
頒価一〇〇〇円(税込み)

ふくろう新聞

＜発行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/

平成28年7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者施設『津久井やまゆり園』で残忍な事件が起こりました。「ヒトラーの思想が降りてきた」という容疑者の言葉が戦時中、ドイツで行われた障害者虐殺を思わせます。なぜ起こったのか、防げなかったのか、解明されることを切に願います。犠牲となった方のご冥福をお祈りします。

戦時中困ったことは
～神戸新聞の取材から～

8月15日の終戦記念日が近づくと「障害者と戦争」をテーマに取材を受ける機会があります。

8月1日、神戸新聞の取材を受けることとなり、以前、神戸新聞に掲載されたことのある黒﨑時安さんが取材を受けました。

黒﨑さんは、父親が「兵隊になれないろうあ者はいらない」と言わんばかりの仕打ちを自分と母親にしてきた。それがもとで母親は死んでしまった。と、生いたちを語ります。空襲警報が鳴り響いても誰も呼びに来てくれなかった、誰も助けに来てくれなかった、と繰り返しおっしゃいます。

黒﨑さんの話は、単に「耳が聞こえない」という障害があるから困ったのではなく、戦争のせいで父親や周囲の人が「戦力たり得るかどうか」で自分を見ていたこと、そういう風潮の社会が障壁となり「困った」状態を作り出したのだということを訴えたいのではないかと感じました。

最後に黒﨑さんは「戦争は絶対に嫌だ」と強く、とても強くおっしゃられました。

（事務長　橋詰恭子）

恒例のそうめん流し

7月17日淡路ふくろうの郷、夏の恒例行事「そうめん流し」を地域交流会主催で楽しみました。当日の朝は生憎の曇り空。小雨が降ったりやんだりしている中で地域交流会の方々と準備をしていると土砂降りの雨。しかし、昼前には雨もやみ、お待ちかねの入居者がやって来ました。参加された入居者の川村さん（80才・香川県生まれ）は「生まれて初めて」と興奮気味に竹の中を流れるそうめんを箸ですくい、よろこんで食べておられました。流れてくるそうめんを黙々とすくっては食べ、すくっては食べ続ける入居者さんもいれば、職員が援助して食べる方もいらっしゃいます。普段あまり食べられない方も、雰囲気の違いからか、普段の食事量より多くそうめんを食べる方もいらっしゃいました。そんな中、入居者自治会長の黒崎さんは、開始当初から入居者のみなさんが食べ終わるまで、そうめんを流す役に徹してくれました。流れるそうめんに涼を感じながら入居者、地域交流会のみなさまと楽しんだ流しそうめん。地域交流会の皆様、今年もありがとうございました。来年もさらに楽しんでいただける行事のひとつになりますように。

ふくろう物語③

香川県丸亀市よりご縁があり、平成28年1月8日にふくろうの郷へ入居された旅田徳幸様と澄江様ご夫妻。徳幸様は盲ろう者で、奥様はろうあ者でお二人のコミュニケーションは触読手話です。

お二人は香川県の田畑が広がる田舎で育ち、お二人は家が近かったこともあり、出会われました。澄江様は「主人がこぐ、自転車の後ろに乗り、田畑の間を走った。」と昔を懐かしく話されました。

徳幸様が28歳、澄江様が19歳の時にご結婚され、澄江様が21歳の時に最愛の娘さんを出産。二人は田畑仕事では「生活が苦しかった」と話されます。最愛の娘が52歳の時に癌で死別となり、とてもつらい思いをした。」と目に涙を浮かべられます。

徳幸様は30歳頃から視力低下があり、77歳の時に失明、以降は夫婦一緒に手話サークルや、ろうあ協会の活動へ出向くことがなくなりました。澄江様が参加すれば、見た内容を徳幸様にお伝えをされていたようです。

ふくろうに入所されてからも、徳幸様の車いすを押しながら「徳幸様にも施設の匂いを感じて欲しい」と時々散歩されます。徳幸様のひげが伸びると日差しを浴びながら、ひげを剃られたりされます。微笑まし光景です。

御食国で淡路牛丼を食べられご満悦

先日も東京より亡き娘の子供が訪問された日は、とても嬉しそうに、楽しいひと時を過ごされておられました。

ユニット職員や看護師と相談し、体調の良い日の6月10日に外出レクリエーションが出来ました。旅田様夫婦に事前に淡路島の観光本を見て頂き、奥様の触手話を介して、徳幸様が「行きたい」「食べたい」と思う場所を決めて頂き、外出を楽しまれました。帰所してから「楽しかった。また行きたい。」次の計画に繋がりそうです。

私たち生活援助員は旅田様ご夫妻を見ながら、年老いていく中で、寄り添い支えながら歩く大切さや、ふくろうの郷の理念でもある「ともに生きる。」を学ばせて頂いているように感じています。

今後も、旅田様に出会えた縁に感謝しながら、生活援助をさせて頂ければと思っています。（星海ユニット　鈴川）

ショートステイ事業休止のお知らせ

平成28年7月23日に第47回評議員会・第73回理事会が開催されました。

今回の評議員会・理事会で、短期入所生活介護事業及び障害福祉サービス短期入所事業（以下短期入所事業）の休止についての議題が提案され、承認されました。

短期入所事業の休止を提案しなければならなくなった理由としては、職員の離職や出産に伴う休暇が重なったこととそれを補う採用が適わなかったことにより、夜勤を含めた変則勤務可能な職員数の不足が原因です。

離職については年初来より続いており今後も予想されることから、理念・運営や職場環境の整備など職責者間での意見交換を含めて討議し、コミュニケーションの徹底を計っていきたいと考えます。

職員全体の力量アップと自主的、集団的な高まりを意識的に進めていくことが必要と考えています。具体的には、短期入所事業再開委員会を設置します。施設長、主任、生活援助員を構成員として再開に向けての毎月の計画策定と推進など、これまでの反省を踏まえつつ、来年4月の再開を目指し、取り組みを始めています。

最後になりましたが、短期入所事業の休止に伴い、ご利用者様、ご家族様、各事業所のみなさまには、多大なご迷惑をお掛けいたしますことをお詫びいたします。開所から10年、多く皆様にご利用いただき、支えていただいたことに感謝し、一日も早い再開を目指し、努力していきます。再開の折には、改めて利用したいと思っていただけるような事業ができるよう取り組んでまいります。

この一票が届くように

7月6日に参議院選挙の不在者投票を行いました。

投票された入居者の想いは反映されるでしょうか。

総合事業でろう高齢者が排除されないために

平成29年度より神戸市は生きがい対応デイサービス（閉じこもり防止）を総合事業の一般介護予防に移行します。平成27年の介護保険の改正での要支援の切り離しを受けて、その部分と生きがいデイをドッキングさせる方針です。これまでの委託事業から、「地域が支える（ボランティア）」の補助事業にするということです。

また、介護予防の部分は、29年度以降は各区で１ヶ所にまとめるとのことです。神戸市は介護予防事業を受け入れてくれる法人を公募するつもりとのことです。

大きく様変わりする国と神戸市の高齢者事業を受けて、神戸ろうあハウスデイサービスが利用できなくならないように一人一人のニーズを見直し、介護保険のサービスはもとより障害者制度の活用を考えねばなりません。

神戸ろうあハウスデイサービスが利用できなくならないように一人一人のニーズを神戸市に届けていきます。そして介護保険のサービスはもとより障害者制度の活用を考えねばなりません。

神戸ろうあハウスデイサービスを本当に「生きがい作り」の場とされている利用者さんだけでなく、まだ巡り合っていない、デイサービスを必要とする高齢聴覚障害者の皆さんにも、広く思いを馳せながら新規の事業展開を考えていかねばと思っています。

須磨デイの様子

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館３階

戦争いやや、生きたい！

～満州での過酷な体験を経て切実に願う平和への思い～

「がんばって、生きて生きて」
武内千代美さんの人生から学ぶ

今年5月、武内さんが当センター主催の社会生活教室に参加されたとき、筆談でお話をしていると「大陸で生きて生きて、一生懸命頑張って」「戦争いやや、生きたい」と書かれました。これまでも何度となく戦争についての思いを話されていたことから今回改めてお話を伺うことにしました。武内さんは大正14年に旧緑町で生まれ、幼い頃から難聴で、小学1年生の時に声が出なくなり京都の病院でのどの手術を受けたそうです。声はか細く、いつも伝えたいことは文章で書いて下さるので、今回も筆談でお話を伺いました。「詳しいことはほとんど忘れてしまった」と言いつつも、ポツリポツリと思い出しながら書いてくださいました。

▲記憶をたどりながらポツリポツリと書いてくださいました

若い頃に祖父と一緒に「淡路開拓団」として満州に渡り、敗戦後引き揚げて来られたそうです。帰郷後はずっと実家で農業を頑張ってこられました。結婚され子宝にも恵まれました。おのころの家へ通所して仲間と一緒に作業をしたり、難聴者とお話したりして人生を楽しむ時間を作られていますが、戦争中の辛い体験は強烈に印象に残っているようでふとした時に言葉にされていました。

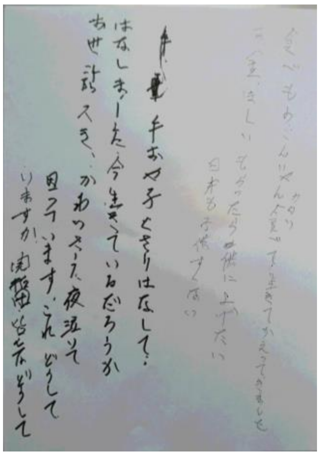
戦時中の食べ物は「コーリャンやカタクリばかり食べて生きていました」と書き、声で「コーリャンは固い」と話されました。コーリャンとはイネ科の植物で戦時中お米の代わりとして配給されていたこともあるそうです。飢えをしのぐ程度で食べるのが楽しみであったとは思えません。

▲笑顔が素敵な武内さんですが、これまでの苦労は計り知れません

仲間に会いたい…

戦争についてどう思うか聞くと、「(戦争)もうないな？ないな？」「○○さんはどうしてるかなぁ？」と何度も聞き返されました。 また、一緒に満州へ行った仲間のことが気になるようで、「○○さんに会いたいなぁ、無理かなぁ」と繰り返し話されました。辛いことの多い満州での生活も仲間との支え合いで乗り越えられたのかもしれません。

武内さんの話を聞いて、平和だけでなく仲間との絆の大切さ、自分のことを整理して語ることの大切さを学びました。開拓団の仲間との再会が実現できればと心から願います。



←武内さんとの筆談の一部

食べもの　こんりやん、カタクリ食べて
生きてかえってきました。
お金ほしい　もらったら子供にあげたい。
　　日本も子供すくない。
手おや子○○○はなして
はなしました。今生きているだろうか。
お世話スキ　かわいさうに　夜泣いて
困っています。これどうしていますか。
開拓団皆んなどうしていますか。

登録手話通訳者研修会

7月12日と19日、手話通訳者養成講座（通訳Ⅱ）の特別講義を登録通訳者研修会とさせていただき、受講生と一緒に学習しました。手話通訳者としての倫理感や仕事に対する心構え、派遣制度の現状や課題について学ぶことができました。参加者は、聞こえない人の声を受けとめ、運動や制度に繋がるような取り組みを続けていこうと思いを新たにしたようです。

“いのち”を考える会 in 淡路

7月10日（日）於：洲本市総合福祉会館

兵聴協・兵通研共催の学習会を社会生活教室として開催しました。内科医の高橋雅彦医師が「生活習慣病」をテーマにたくさんの資料を使って説明してくださいました。参加者からは自らの禁煙体験や入院経験の発表がありました。

午後は洲本市内の喫茶店で交流を行いそれぞれの経験について話し合いました。

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原222-2

ふれあいセンター「夏まつり」

（中川原地域ふれあいセンター）

保育所の皆さんの歌やダンス演奏

7月14日(木)、ふれあいセンターで夏祭りが開かれました。中川原保育所や中川原小学校の子ども達、中川原地域の方々、デイサービスやおのころの家の通所者約150名が参加しました。

まだ梅雨が明けていなく、週間天気予報では、曇り雨。前日も雨。心配されていましたが、当日は朝から快晴。お日さまも「夏祭り」を応援してくれました。暑い中でこそおいしく食べられる流しそうめん。男性料理講座の皆さん、コーディネーターの皆さんによる鹿肉のフライやおにぎりに、中川原保育所、小学校の子どもさんたちの声がとびかい、地域の方々の皆さんとてもいい笑顔で過ごされていました。

そうめんを食べた後は、室内で色々なゲームをしました。おのころの家の利用者さんも、空き缶積み・バルーンアート・囲碁ボールの3つに分かれてそれぞれ進行役を担当し、一緒に楽しみました。最後に中川原小学校の皆さんに肩を叩いてもらい、保育所の皆さんの歌やダンスに、心癒される一時を過ごしました。（おのころの家　藤本）

農作業の状況

玉ねぎ収益は昨年度より倍増！

6月に収穫した17トンの淡路玉ねぎは、業者出荷と注文販売等ですべて完売することができました。ご注文いただいた皆様、ありがとうございました。「さて、次は何を作りたいですか」と農業班の皆さんに聞くと「スイカ、トマト、トウモロコシ、イチゴ、メロン、キャベツ」と色々出て話が盛り上がります。「これからの時期を考えると秋植えのイチゴ・ニンニクはどうかな」「トマトは来年の4月植えよか」「他は時期外れやな」とほぼ植えるものが決まってきました。玉ねぎ栽培と並行して新たに野菜を作ることになりました。次回の玉ねぎ苗作りは8月中旬から畑の土つくりをし、9月中旬に種まき作業をして本格的に始まっていきます。今は真夏の野菜づくりは避けて、ふくろうの郷の環境整備や地域のおたがいさま事業で草刈等地域支援に精を出しています。（おのころの家支援員　藤崎）

～日帰り研修行事～

7月15日(金)、利用者さん4人と一緒に徳島県にある地域活動支援センター「やまもも」に行って来ました。9時におのころ屋を出発し10時前に着きました。10時から始まる「朝の会」に参加させて頂きお互いに自己紹介を行いました。10時30分から作業が始まり、やまももの利用者さんはそれぞれの仕事を始められました。アイラブ焼を作っている様子、手芸をされている場所など施設内を見学させて頂き、職員の方から色々お話しをお伺いする事ができました。おのころ屋の利用者さんも各々、やまももの利用者さんと交流し積極的に質問をしていました。予定していた時間があっという間に過ぎてしまいました。みんなそれぞれにアイラブ焼を購入し、10月に行われるふくろうふれ愛まつりで再会する事を約束して帰路に着きました。（おのころ屋　山田）

共同作業所神戸ろうあハウス　安心安全な拠点確立

新年度もあっという間に4か月が過ぎました。日々、なかまと接する中で、笑いあえる嬉しさと、個々の課題への対応の大変さと感じています。

なかまのKさんは、病気が原因で、右麻痺と両足が動きません。作業所が大好きで、ほぼ休みなく毎日通ってきますが、移動やトイレ、食事とすべてに介助が必要な状態です。作業所の階段もトイレも狭いので、力任せの介助に限られてしまいます。本人にとっても、男性職員にとってもかなりの負担です。今の作業所では、介護用品を使って、少しでも負担を減らす工夫もできません。広い場所への移転が急務となっています。

通いなれた作業所を離れるのは、なかまにとっていいのか、悪いのか、不安もありますが、目の前にある課題の解決には決断する時と思っています。

法人の神戸拠点としても、一日も早く、安心安全な拠点を確立して、神戸での社会資源の充実を目指したいと思います。（野村）

続々・地域を語る 中川原むかし話 かるた 口説き

北岡　肇　NO25

㉆　人形浄瑠璃芝居の中野一座。

淡路人形浄瑠璃芝居の発祥、歴史については諸略させて頂きます。

洲本市中川原町安坂。先山の麓、先山道のすぐそばに中野家の邸宅があります。中野篤一郎氏の生家です。昭和の初め淡路島の津名郡選挙区から兵庫県議会議員として選出され、歴任当時、現在の県道・先山道を建設されました。また、淡路人形浄瑠璃芝居に心を寄せられ中野人形座をを創設されました。中川原村史の記述から紹介します。

「中野篤一郎氏はかねてより古典、淡路人形芸術の衰退を嘆きこれが復興に多年苦心していいたところ、昭和9年鮎原村の人形座、小林六太夫座は多年、紀伊侯爵家のお抱へ人形座として他座に見られぬ特別な待遇を受けて悠々たる生活をしていたものだったが、昭和初年廃藩にてこの待遇を解かれて、俗に云う猿も木から落ちたる思いで、生活は苦しく、巡業意の如くならず、火災や水難と次々の災いに負債を重ね一座を売却しようとするのを横浜市の貿易商人が聞きつけて、志筑町長・森田福二郎方へ来たものじゃったが、同氏はこの貿易人を追い帰し、同時に同行の士を招いて鮎原村に至り、債務の調停を計ったもので、中野篤一郎氏は全債権を負いて完済して、一座の用具を引き取り、それらの整備を調べて、永田秀次郎閣下、湯沢知事、その他有位知名の士の後援を得たものだった。

丁度、その時、大楠公六百年記念大祭が催されることを知り、早速楠公劇を新作して神戸市内各学校、各種団体に観賞せしめてより、東京都報知新聞社大講堂及び有楽座、東京劇場、学校等に順次公演、好評を博し、「文楽は大阪に」「淡路は東京に」と激賞を受け、この要望に答え東京に常設劇場を開設せんとしたが大東亜戦となり、やむなく淡路に引き揚げてきた・・・。

7月7日（木）厚浜芸能保存会の皆さまと踊りの交流を行いました。いつもありがとうございます。

いつもご支援ありがとうございます。

ふくろう募が1,065,754円（8月2日現在）となりました。

行　事　・　予　定

8/28（日）かかしづくり

9/3（土）　職員採用試験

9/22（木・祝）理事会・評議委員会

10/23（日）ふくろうの郷10周年記念　第11回ふれ愛まつり

お詫びと訂正

8月号5面上段、小松茂様と記載のお写真を掲載いたしましたが、正しくは「小松　茂樹様」です。お詫びして訂正いたします。

ひとりひとりを大切に　ともに生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では
職員を募集しています

～あなたもともに働きませんか～

・特別養護老人ホーム　淡路ふくろうの郷
　（生活支援員・看護師・調理員）
・おのころの家（調理員）

職員採用試験：9月3日（土）
（詳細はお問い合わせください）

0799-25-8550（橋詰）まで